

令和6年度森林吸収源インベントリ情報整備事業東北ブロック現地講習会奉告

開催日：2024年5月22日（水）

時間：8時20分～18時00分

場所：ID040440（宮城県本吉郡南三陸町歌津字川内）

受講者：（株）宮城環境保全研究所（6名）

講師：小野（責任者）、木田（森林総研東北支所）、古澤、野口（森林総研立地環境研究領域）

場所の概要：調査プロットの約100m北の斜面上部に林道が通っていた。林道沿いに整備された土場に駐車し、調査プロットにアクセスした。調査プロットは、北東-南西方向の尾根が中心杭の南東側を通り、北西側斜面がヒノキ人工林、南東側斜面がスギ人工林の地点であった。広葉樹の古い根株が残存していた。尾根沿いから北西側の斜面の一部にアカマツが混在し、松枯れ被害による枯損が散見された。

講習会概要：駐車箇所である土場にて調査用具・野帳の所持確認を行った後、調査プロットに移動した。駐車箇所からプロットへ移動開始後数分で全ての杭が見つかり、ライン作成、林相撮影がスムーズに行われた。枯死木調査では、株立ちしていたと思われる、分解度が高い広葉樹の根株が複数見つかった。地際直径や地際高の測定方法の確認と助言のための時間を要し、枯死木調査の講習は午前中いっぱいまでかかった。午後からベテランと若手の2人組の3班で土壌断面調査を行った。全体的に丁寧に調査が行われていたため、残った1方向の調査の開始が遅れ、講習終了は夕刻となった。その後、駐車箇所に戻り、サンプルと野帳の記載事項の確認を行って、講習会を終了した。

指摘事項：

- ・根株の地際直径、地際高等の測定に関し、根株の腐朽が進み、元の根株形状が分かりにくいものが多数あった。地際直径の測定位置、地際高の測定方法等について疑義が残ったものは本所事務局に問い合わせ、後日回答することとした。本来の地際直径測定位置より低い位置で切断されている根株で、斜面下側に根張りの露出部分が大きいケース（写真1）について、現地では地際直径と根株直径は切断面の直径とし、地際高（上）は0、地際高（下）は斜面下側に露出している高さとするよう指導したが、本所での検討結果を受けて、「根株直径、地際直径は同じ位置で測定。地際高（上）、（下）は、根張りだと判断した場合には、0と測定という対応が正解。ただし、基本はマニュアルの調査方法に沿って、調査を行う。」とメールにて回答した。

- ・断面調査時の深さを示す串の位置について、スケールの断面側にすべきか外側にすべきかについて質問があった。断面幅（スケールの内側と右側の串の間隔）が50cm確保できていれば、串を刺す位置はスケールの内側でも外側でも構わないと回答した（写真2）。

全体講評：当事業における調査経験豊富な事業者のため、全体的に丁寧かつスムーズに調査に取り組んでいた。引き続き精度の高い調査の遂行を期待する。熊の目撃情報が多いので、安全を優先して、調査地点に到達できない場合は連絡して欲しい。



写真1 根株の地際直径・地際高の測定位置・方法について疑義が生じた根株
左：上部全景、右：側面全景



写真2 土壌断面調査における深さを示す串とスケールの位置関係について
写真の場合はスケールの内側が断面写真幅の鉛直ラインと一致しているので串はスケールの外側で問題なしと指導した。



写真3 調査道具の確認



写真4 ライン作成



写真5 円筒採取



写真6 全体講評